

こんな人材が欲しい



トヨタテツ東北株式会社
取締役社長
うめ くら けんじ
榎村 健司さん

コミュニケーションと気付きを大切に
チームワークを意識してほしい

製造業で働くとき、一番大切にしてほしいことは「チームワーク」です。

「チームの一員として、上司や先輩から言われたことは素直に受け止め、わからないことや心配事があれば、気負わず相談してください。それが、良いチームワークにつながります」とよく新入社員に話しています。そのために、あいさつや礼儀、そして元気を意識する。基本的なことかもしれませんが、とても重要なことだと思っています。そして、「いつもと違う」という気付き

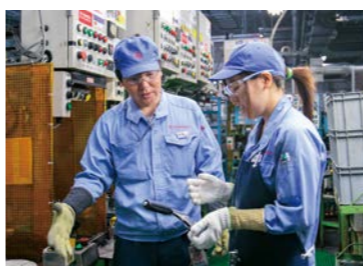
いい

を感じ、「自分はどうすべきか」を考え行動に移すことも心掛けてほしいですね。「ごみが落ちていたら拾う」「壁の額縁が曲がっていたら直す」。最初は、こんな小さなことでもいいんです。その一つ一つの積み重ねが、製造業の生命線である品質の向上や、自分が上の立場になったときに、後輩や部下の体調や心境の変化を察知し対処するスキルにつながるはずなんです。

今年4月に、「東北風土マラソン」で、たくさんの中高校生ランナーを見かけました。苦しい表情をしながらも、楽しそうに走る生徒たちの姿に、とても清々しい気持ちを感じました。みなさんには、学校の授業だけではなく、部活動にも汗を流し、目標に向かって前進する精神力を育ててほしいと思っています。

愚直に、地道に、徹底的に
最初は辛抱強く仕事に向き合って

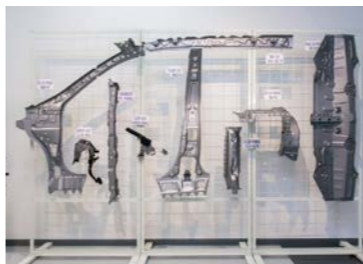
これまで工業高校出身の新入社員を見て



新入社員は、先輩社員から丁寧に指導を受けながら、製品の作り方を身に付けていく



一人で仕事ができるようになって、わからないことは先輩に意見を求める。チームワークが大切な製造現場だ



トヨタテツ東北では、車体の骨格となる部品や、ブレーキなどの機能を支えるあらゆる部品を手掛けている

きて感じるのは、技術面や社会人としての心構えについて、学校でしっかり指導されるので、基礎的なことが身に付いており、仲間への溶け込みがスムーズで早いということだと思います。加えて、「伸びしろ」と言います。活動で様々な経験を積んできたことによつて、社会人になってから大きく成長できるのではないかと期待しています。私たちトヨタテツ（豊田鉄工株式会社）グループの行動の原点に「愚直に、地道に、徹底的に」という言葉があります。社会人1年目は、覚えなくてはいけないうことや、うまくいかないことがたくさん出てきて戸惑うことでしょう。でもしばらくは、辛抱強く仕事に向き合ってください。仕事のことは、入社してから少しずつ身に付けていけばいいですから。自分が手掛けた製品が、クルマの一部になって、世に出るわけです。こうしたものづくりの喜びをチーム内で共有できるように、私たちは新入社員のやりがいを育て、じっくりと成長を後押ししています。



「産業基礎」で農業（畜産分野）について学ぶ機械科の生徒。同カリキュラムは異業種に触れることができる貴重な時間だ



農場経営者の話に耳を傾ける1年生の生徒。講話を学年全体で実施することで、生徒は様々な産業の生の声を知ることができる



昨年度、生徒によって商品化された甘酒。農業科の生徒が育てた環境保全米を材料に、生徒が商品の企画やネーミング、パッケージのデザインまで行った

学科の枠を越えた学科間連携で 地域産業の基礎知識を学ぶ

本校では、卒業後に登米地域の産業界で活躍する生徒を育成するため、地元企業や事業所と連携を図りながら独自のカリキュラムを作成しています。

1年生の「産業基礎」では、本校にある6つの学科の基礎知識を所属学科に関わらず、全生徒が学習します。したがって、農業科の生徒でも、福祉や機械について学びます。また、事業所や工場の見学でも、生徒は所属学科に関連する事業所などのほかに、別の分野についても見学します。

学年全体で行う講話では、地域の企業などから講師を招き、農業・工業・商業・福祉の4分野について、お話をいただきます。このように1年生では、学科の枠を越えた「学科間連携」カリキュラムを通じて、地域産業について幅広く学んでいます。

2年生になると、前期に実施する「総合選択システム」で、所属学科以外の専門分野について学びます。「産業基礎の学習で

関心を持った」「今後の進路を見据えて」など、生徒は自分で学習する分野を選択することができま

地域と連携した起業実践を通して 地域の「産業スペシャリスト」を育成

2年生の後期から3年生にかけては、「起業実践」が行われます。生徒がチームを作り、地域の課題について調査研究を進め商品開発などを行います。

2年生では、教員から与えられた題材を基に、アイデアの出し方やプレゼンテーションの方法について学び、3年生では、学科の壁を取り払った混成チームを組んでアイデアを提案します。指導には、地域の方々にも協力をいただきます。生徒には、地域資源を活用した商品・製品開発、福祉や観光サービスなど新たなものを提案させ

たいと考えています。

こうした特色あるカリキュラムは、学校の教員だけで話し合われたものではありません。登米地域の農業、工業、商業、福祉関連の企業や行政などで構成される「登米地域パートナーシップ会議」での話し合いを通じて、具体的な活動にまで落とし込んでいきました。

本校では、専門性の追求をしつつ業種の枠を越えた幅広い知識を身に付けた「産業スペシャリスト」を育てるべく、教育活動に取り組んでいます。学科間連携と地域連携を軸に、地域産業を総合的に学びながら、生徒には広い視野と発想力を鍛えていってほしいと思っています。

宮城県登米総合産業高校

2015年に、登米地区の3つの高校と1つの学科を再編統合し、開校した県内初の総合産業高校。農業科、機械科、電気科、情報技術科、商業科、福祉科の6学科を設置。学科の枠を越え、地域に密着した教育活動を展開している



所在地
登米市中田町上沼北校場 223-1
TEL 0220-34-4666
FAX 0220-34-4655
http://tomesou.sakura.ne.jp/html/



こんな人材を育てている



宮城県登米総合産業高校
連携部長 主幹教諭

よしだ ゆうき
吉田 勇喜さん